



独立行政法人

国立病院機構

National Hospital Organization

中国四国グループ

職場 紹介

技術を磨く。夢を叶える。
あなたの笑顔をまっています。

● 言語聴覚士



作成

国立病院理学療法士協議会

中国四国部会

国立病院作業療法士協議会

中国四国グループ部会

国立病院言語聴覚士協議会

中国四国グループ部会

ごあいさつ

このたび、中国四国の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士3協議会共同で職場紹介パンフレットを作成しました。

職場紹介パンフレットは3職種共通部分の施設紹介と各部門紹介から構成され、就職活動をしている学生の皆様に、就職を意識する上で必要な情報が提供できるように各部門の内容を創意工夫して掲載しております。

また、各施設の執筆担当者は学生の皆様が、パンフレットを手にとってくれることをイメージしながら、それぞれの施設の特徴を踏まえて作成しておりますので、ぜひ現場の雰囲気を感じていただき、就職活動の一助となれば大変嬉しいです。

我々は、国立病院機構の仲間として皆様とともに働けることを心より願っております。



国立病院理学療法士協議会
中国四国部会
会長 平野哲生



国立病院作業療法士協議会
中国四国グループ部会
会長 片岡靖雄



国立病院言語聴覚士協議会
中国四国グループ部会
会長 野々篤志

中国四国グループ関連病院・施設の紹介

* は、ST不在施設(令和5年7月1日現在)

鳥取県

鳥取医療センター
米子医療センター*

島根県

松江医療センター
浜田医療センター

岡山県

岡山医療センター
南岡山医療センター
邑久光明園
長島愛生園

広島県

呉医療センター
福山医療センター
広島西医療センター
東広島医療センター
賀茂精神医療センター*

山口県

関門医療センター
山口宇部医療センター
岩国医療センター
柳井医療センター

徳島県

東徳島医療センター
徳島病院

香川県

高松医療センター
四国こどもとおとなの医療センター
大島青松園*

愛媛県

四国がんセンター
愛媛医療センター

高知県

高知病院



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士24名

言語聴覚士9名

当院の特徴

『脳』と『こころ』の病院です。

当院は鳥取県東部を診療圏域とする中国グループの「精神疾患」に関する中心的施設であるとともに、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害に関する専門的な医療等の機能を備えた医療施設です。特に地域医療として回復期リハビリテーションと認知症の診療を行っており、近年は「パーキンソン病センター」を開設し、県内外の患者さんに対し専門的なリハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ

当院リハビリテーション科では、働きがいのある職場づくりを目指すとともに、療法士としての社会性や専門性を身につけていけるよう、職員一同日々研鑽を積んでいます。また、組織の中においても自己の役割と責任を持って、患者さんファーストの精神で臨床業務に取り組んでいます。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地

電話番号（代表）：0857-59-1111

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://tottori.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、回復期、重症心身障害、神経難病、精神の4領域において各専門職種とのチーム医療を進めています。STの在籍人数は中国四国グループ内で最も多く、患者さんの生活様式に応じた個々の目標設定及び実現に向けて、在宅復帰や職場復帰、復学、運転再開などの支援を行っています。

また、小児科を含め多くの診療科からの依頼があり、成人・小児問わず幅広い分野に携わることができます。パーキンソン病短期集中リハビリテーションや発達外来など、専門的かつ地域に根差したリハビリテーションを提供しています。



教育体制

新人教育では、当科規定の新人教育プログラムに基づきプリセプターを中心に、年間を通じて社会人スキルやSTとしてのスキル向上に向けたサポートを行っています。

院内の研修も多く他部門の研修にも自由に参加でき、経験者、未経験者問わず、職種を超えて自己研鑽しやすい環境です。LSVT® LOUD等の資格取得を支援します。

学術活動

令和4年度の学会発表、学術論文掲載はありません。

LSVT®LOUD 認定資格保有者3名

その他、院内研修(認定看護師向け)の講師を務めています。

他部門との連携

各病棟では、患者さんの症状に合わせて適宜、多職種合同のカンファレンスが行われ、医師や看護師、リハビリテーションスタッフなど関連職種で訓練状況、在宅復帰に向けた支援策を検討しています。

その他、院内において委員会やラウンドに参加し、特にST分野ではNST、摂食嚥下障害対策委員会、物忘れ外来にて他職種と協同しながら専門性を活かした活動を行っています。

先輩からのメッセージ

当施設では言語聴覚士が専門性をもちつつ、幅広い分野に携わることができます。また、他施設に比べ言語聴覚士の数も多く、経験豊富な先輩方がおられるため、相談しやすいと感じます。

育児休業や育児短時間勤務制度など、福利厚生が整っており、子育てをしている方にも働きやすい環境だと思います。

是非、国立病院機構中国四国グループで、一緒にステップアップしませんか。



松江医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

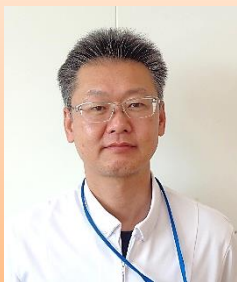
作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

島根県東部を診療圏として、呼吸器疾患・神経筋疾患・重症心身障害医療の3領域を専門とした医療機関です。特に呼吸器疾患は地域における「呼吸器病センター」として自負を持ち診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



今年度リハ科の目標は「経営改善に貢献する」とし、各自の平均診療点数の向上と質の高い医療を継続して提供し患者確保にも努めることとしました。またワークライフバランスも重視し、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指しています。松江はチームワークが良く、困ったときには皆で助け合うことができる誇らしい職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒690-8556 島根県松江市上乃木5-8-31

電話番号（代表）：0852-21-6131

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://matsue.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では神経難病、呼吸器疾患、重症心身障害を中心に、乳幼児から超高齢者まで幅広い疾患、年齢層の患者さんに対して摂食嚥下訓練、発声発語訓練、発達訓練を主にリハビリテーションを行っています。従来から長期療養の患者さんが多く、患者さん一人一人に対して長期間に渡りじっくりと向き合ってサポートすることが多かったですが、近年はそれに加えてパーキンソン病を主な対象とした短期集中リハビリテーション入院が増加しており、短期間での在宅復帰に向けた支援が求められています。



教育体制

一般的な業務内容についてはPT、OTと同様の教育プログラムを使用して指導を行います。ST診療については経験豊富な先輩が適宜、助言・指導を行います。少人数部門の良さであるコミュニケーションのとりやすさを活かし、意見や思いを伝えやすい雰囲気づくりを心がけています。

学術活動

日本言語聴覚学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本神経摂食嚥下・栄養学会等の各種学術集會に積極的に参加しています。

国立病院総合医学会において研究発表を行うことがあります。

令和4年度実績：講師 2件（難病医療従事者研修など）

他部門との連携

脳神経内科、呼吸器内科や退院前に行われる各種カンファレンスに参加し情報共有をしています。

栄養サポートチーム（NST）に参加し医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師らと協働して活動を行っています。特に摂食嚥下認定看護師とは嚥下分野で密な関わりがあります。

嚥下造影検査でも多職種と協力して検査を行っています。

先輩からのメッセージ

入職して6年目になります。

日々試行錯誤しながら業務に取り組んでいます。困りごとがあるときには先輩方に相談に乗って頂き、解決方法を一緒に考えています。研修制度も充実しており、学習の場としても恵まれた環境です。

また、結婚・出産を経験し、育児休業を経て復職しました。復職時は不安もありましたが、育児時間制度を活用し同僚のサポートを受けながら働いています。ライフステージが変わっても安心して働き続けることができる職場です。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士17名

作業療法士12名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院は、県西部唯一の3次救急医療から在宅復帰まで、幅広くカバーする地域の中核病院です。理学療法は、急性期・回復期・地域包括・緩和ケアに大きく分かれており、脳血管疾患、心大血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、がん患者等の幅広い疾患を対象にリハビリテーションを行っています。

職場責任者からのメッセージ



我々、浜田医療センターリハビリテーション科は「仲間を思いやる気持ち」「感じる心」「地域医療を支える精神」を備えたスタッフ一人ひとりが、日々、成長し続けている若き集団です。患者さんやご家族に信頼される医療人として、そして他職種からの期待に応えることのできるチーム医療の一員として、自らの課題や組織の目標に向き合いながら、仲間たちと共に努力を続けています。また、ワークライフバランスを保つことにも積極的に取り組み、誰もが働きやすい職場づくりも推進しています。是非、浜田医療センターリハビリテーション科から、皆さんの未来につながる大切な一歩目を踏み出していただきたいと願っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777-12
 電話番号（リハビリテーション室）：0855-28-7098
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://hamada.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、島根県西部唯一の3次救急指定病院であり、急性期医療を中心に、回復期病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有する地域の中核病院で、病床数は365床あります。

リハビリテーションスタッフは34名、そのうちSTは5名が在籍しています。半数近くが臨床経験5年以下の若いスタッフが多いリハビリテーション科です。

言語聴覚士の関わる疾患は、脳血管疾患を中心に呼吸器疾患・外科疾患・内科疾患と多岐に渡っています。そのため、高次脳機能障害、コミュニケーション障害、嚥下障害など様々な症状を対象にリハビリテーションを行うことができます。



教育体制

新人教育については、リハビリテーション科全体で力を入れて取り組んでおり、プリセプター制度を取り入れ、科内新人研修を実施しています。院外で行われる勉強会にも参加しやすい環境で各自自己研鑽に励んでいます。

学術活動

がんのリハビリテーション研修修了者を2名有しています
国立病院総合医学会や山陰ST協会にて症例発表を行っています。
准看護学校・付属看護学校の講師として講義を実施しています。

他部門との連携

栄養サポートチーム(NST)に参加し、毎週多職種で回診を行っています。
リハビリテーション医によるVF/VEも実施しており、より緻密なアプローチを目指しています。

先輩からのメッセージ

入職当初、回復期病棟に配属となり、多岐にわたる業務をこなしてゆけるか不安がありました。しかし、経験豊富な先輩方からアドバイスを頂きながら、2年間で急性期の臨床も含めた様々な経験を積むことができました。

STにとって必要な知識を幅広く学ぶことができる職場です。ぜひ、国立病院機構中国四国グループと一緒に働いてみませんか。

(入職3年目)





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

運動器

循環器

脳血管

新生児

呼吸器

がん

神経難病

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士22名

作業療法士7名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は平均在院日数が約10.5日の急性期病院です。対象となる疾患は、整形外科・循環器・脳血管・新生児・呼吸器・がん等多岐にわたります。早期介入と早期の機能回復をスローガンとし、介入は入院直後または術後当日の早い段階から行われます。心臓リハビリテーションでは心肺運動負荷試験に基づいた運動指導や日常生活指導などを含む、包括的かつ集学的なリハビリを行っています。呼吸ケアサポートチームや緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどにも参加し、多職種と協同した活動も行っています。

職場責任者からのメッセージ

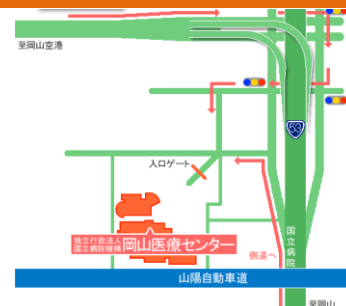
当院は急性期医療に特化しており、上記のように平均在院日数の短縮化を目指しているため、リハビリテーション科には早期介入と介入効果の向上が常に求められます。

そのような患者さんや病院からのニーズに応えるためにも、当科では職員研修の充実を図っています。新人・中堅職員・役職者など世代別対象の研修やプレゼンテーション指導に注力し、在籍している職員がインセンティブを感じられる職場作りに努めています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-1192 岡山県岡山市北区田益1711-1

アドレス（代表）：504-info@mail.hosp.go.jp



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では成人・小児領域の患者さんを対象にリハビリテーションを提供しています。

脳血管疾患、神経難病、呼吸器疾患、がん、摂食嚥下機能障害などにより困難が生じた、様々な患者さんに関わらせていただいています。

言語聴覚療法については、早期コミュニケーション手段の獲得、さらには円滑なコミュニケーションを図ることを目的に、失語症を含む高次脳機能障害、構音障害、音声障害等に対して評価訓練を実施しています。

摂食嚥下リハビリテーションについては、栄養手段の確保および安全な経口摂取の継続を目的に、医師・看護師等とともに嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査、嚥下機能訓練を積極的に実施しています。



嚥下造影検査



教育体制

リハビリテーション科研修会を定期的（1回/週）に開催しており、理学療法士、作業療法士とともに日々の臨床の振り返りやスキルアップにつなげる機会があります。

医療安全研修・感染管理研修など医療人として必要な知識の習得に関わる研修会が開かれています。

がんのリハビリテーション研修等の資格取得をサポートする体制があります。

学術活動

看護師を中心とした他部門に対して嚥下評価および嚥下リハビリテーションの研修を行っています。

看護学生に対して高次脳機能障害、嚥下リハビリテーションの講義を行っています。

他部門との連携

各診療科ごとに定期カンファレンスを実施し、多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカー等）とともに情報共有に努めています。

患者さんに安全な食事環境を提供するために、医師・看護師との情報共有を積極的に行っています。

先輩からのメッセージ

当院では急性期の患者さんに対して早期から評価・介入に携わることができます。発症直後は困難であった「話すこと」「食べること」が日々改善していく喜びを共有できることは言語聴覚士として大きなやりがいを感じられます。また、障害が残存してしまった患者さんに対して、より良く過ごしていただくためにチームでアプローチすることの大切さを学べます。





南岡山医療センター

対象病期

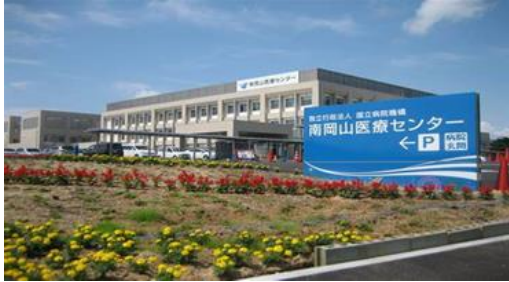
高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名 作業療法士10名 言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は、急性期病棟、神経・筋疾患病棟、呼吸器感染症病棟、重症心身障害児者病棟を有しています。リハビリテーションにおいても入院・外来患者さんの急性期・慢性期に介入しています。職員は、子育て世代、介護世代等と各年代層の背景に対応できるようワークライフバランスを支援しつつ、職員の目指すキャリアアップも支援しています。

職場責任者からのメッセージ



職場は新卒1年目から、30年前後までの経験年数を有するスタッフで構成されています。臨床業務について常に先輩からの指導や助言が得られる体制です。職員間のコミュニケーションも経験年数に関わらず連携がとれるようにしています。また、ハラスメント防止についても積極的に職員への啓発を行うとともに、メンタルサポートにも気を配っています。「職員みんなが働きやすい職場、働き甲斐のある職場、病院のために頑張る職場」をモットーにしています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

電話番号（代表）：086-482-1121

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>

アクセス：https://minamiokayama.hosp.go.jp/about/index_3.html

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

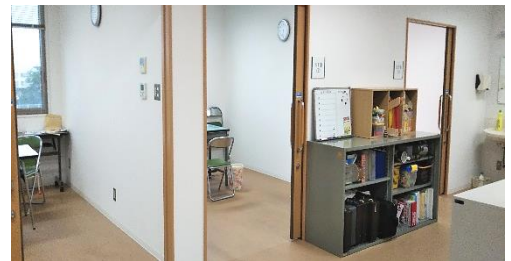
遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害、小児の発達障害等の領域において評価・訓練を実施しています。

入院患者においては摂食嚥下障害に対する訓練が中心となっていますが、外来においては、発達障害を抱えた小児患者も多く、言語発達、コミュニケーション促進を目標に訓練に取り組んでいます。

昨今、誤嚥性肺炎による入院が増えていることから、在宅患者の誤嚥性肺炎予防を目的に、医師・看護師・栄養士ら他職種とチームを組んで嚥下外来、嚥下教育入院も始めています。



教育体制

新人教育では、当科規定の新人教育プログラムに基づき、新採用職員の指導を実施しています。定期的に開催している部門会では症例検討を行い、臨床業務における疑問、評価の見方、訓練プログラム立案等に対する助言を行っています。院外の勉強会についても情報提供を行い、自己研鑽の機会を提供しています。

学術活動

学会発表：令和4年度 なし

その他：近隣の保健所が主催している在宅難病患者を対象とした相談会に毎年参加しています。

他部門との連携

毎月、呼吸器内科、脳神経内科、小児科等において、多職種（医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー等）とのカンファレンスが行われています。

毎週栄養サポートチーム（NST）のカンファレンス・ラウンドに参加しています。

毎月、呼吸ケアチームや摂食嚥下サポートチームのチーム会に参加しています。

他職種（医師、看護師、栄養士）と協力し、嚥下外来や嚥下教育入院において評価・訓練を実施しています。

先輩からのメッセージ

当院は神経難病や高齢の患者さんが多く、急性期とは異なり、患者さんの病状に加えてご本人やご家族のご意向を汲み取りながらのリハビリテーションを行うことが必要となってくる場合もあります。患者さんにとって何が最善なのか、毎日悩みは尽きませんが、先輩方や上司の丁寧な指導、多職種の方に日々支えられ、充実した毎日を送っています。

また国立病院機構は新採用研修や専門分野の研修等、入職後のスキルアップ体制が整っていることも魅力の一つです。

この成長できる環境で、ぜひ私たちと一緒に働いてみませんか？



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

総合診療棟外観



邑久光明園全景



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士3名

作業療法士2名

言語聴覚士1名

当院の特徴

国立療養所邑久光明園は、全国に13ある国立ハンセン病療養所のうちのひとつで、岡山市の東南3.5Kmの瀬戸内海に浮かぶ長島にあります。瀬戸内海の温暖な気候と四季折々の美しい自然に満ちあふれた環境は、療養に最適の地とされております。

ハンセン病はらい菌によって引き起こされる慢性の感染症です。この菌は神経組織との親和性が高く、末梢神経がおかされることによって生ずる神経障害がもっとも重要な症状です。現在では、抗生剤を中心とする治療法が確立されており、完治する疾病です。

しかし、現在当園におられる入所者様の多くは有効な治療法がない時代に発症したため、重複した障害を後遺症として残してしまいました。また、入所者様の平均年齢は約88歳と高齢化しています。そのため、リハビリテーション及び介護予防が重要となっています。

職場責任者からのメッセージ

邑久光明園の職員は入所者の皆さんの一日一日を大切に、今後の人生を実りあるものにできるよう仕事に従事しています。

また、職場はワークライフバランスの取り組みを推進しており、働きやすい職場環境を整えています。業務は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士が連携し、入所者の皆さんがよりよい生活ができる様に努めています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253
 電話番号（代表）：0869-25-0011
 リハビリテーション室まで
<https://www.mhlw.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

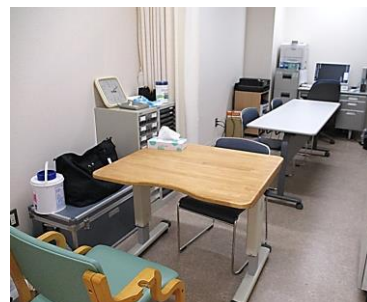
365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、主に摂食嚥下障害の評価・訓練を行っています。ハンセン病の後遺症による器質的要因に、高齢化によるサルコペニア、フレイルが重なって、少しずつ食事が難しくなっています。そこで、多職種から成る摂食嚥下障害対策委員会（SST）のチームの一員として、入所者の皆さんの楽しみである「食べる」を支援しています。



言語聴覚療法部門は摂食嚥下リハビリテーション室に所属しています。歯科医師、歯科衛生士と協力し、入所者の皆さんの摂食嚥下機能維持に努めています。理学療法、作業療法部門とは所属が異なりますが、訓練室は近接しており、いつでも情報交換できます。

教育体制

入職後3日間新採用者研修があり、ハンセン病や療養所の歴史について、当事者である入所者の方から直接お話を聞くことができます。

歯科医師がSST委員長を務めており、理学・作業療法士もSSTメンバーです。「食べる」と「口腔」は密接につながっており、口腔にまつわる様々なことを身近で学ぶことができます。

療養所という生活の場で、SSTメンバーと活発な意見交換が行えるため、その人のニーズや生活様式を考慮しながら「食べる」を支援するということが具体的に学べます。

園内で各種研修会が開催されています。また、園外の研修会についても随時情報提供されています。

他部門との連携

SSTの他に、人生サポートチーム（JST）、栄養サポート・創傷対策委員会（NST）、医療安全管理委員会、感染対策委員会と各種チームが活動しています。

STが密接に関わるSSTは、チームで食事場面を評価し、多職種の多角的な視点で改善点を話し合うため、スピーディーに対応できています。

先輩からのメッセージ

4月から当園に異動となりました。生活の場で関わること、入所者の皆さんがいずれも高齢者であることから、機能の維持・改善だけではなく、その方のニーズを尊重しながら、いかにQOLを維持していくかを考えていくのが難しくもあり、楽しくもあります。

チームで動くことが多いので、他職種の方も気さくに相談にのってください、一人職場ではありますが、心強いです。





国立療養所 長島愛生園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 4名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

当院の特徴

当園は1930（昭和5）年に、日本で初めての国立療養所として誕生しました。その当時ハンセン病が感染症であることはわかっていましたが、有効な治療がなく、国の政策として療養所への隔離が行われました。入所者の皆様は、ハンセン病という病気は治っているにもかかわらず、高齢化や後遺症、今なお残る偏見・差別により社会復帰が困難なため、当園で生活されています。

職場責任者からのメッセージ



当園は入所者ファースト、職員もファーストをモットーに全職員が一丸となり、日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、社会的背景を理解し、ハンセン病の歴史を深く感慨するものと思います。またワークライフバランスも重視しており、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指しています。チームワークではどこよりも優ると自負している当園の理学作業療法室に、ぜひ一度見学にお越し下さい。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539

電話番号（代表）：0869-25-0321

理学作業療法室：泰地（たいち） 内線：828

<https://www.hosp.go.jp/~aiseien>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法では、他の病院や施設と同様に、ハンセン病の後遺症に加えて、入所者の超高齢化もともない、摂食嚥下障害の評価・訓練などの必要性が増しています。そのため耳鼻咽喉科医師をはじめとする他職種と協力して、摂食嚥下障害の対応を中心に行っています。



教育体制

園内外での勉強会や研修会のほか、施設内での研修会の講師や部署内での症例検討やリハビリテーションカンファレンスも随時行っています。

また、摂食嚥下に関しては他職種の先輩方からも指導を受けることができます。

学術活動

毎週月曜は近隣施設の邑久光明園に派遣講師として出張しています。当園ではNST活動を月に2回、摂食嚥下障害支援チーム（SST）活動を週に1回と参加しています。

他部門との連携

リハビリテーション部門のほか、NST（栄養サポートチーム）やSST（摂食嚥下サポートチーム）とも連携しており、耳鼻咽喉科医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、義肢装具士、理学・作業療法士とともに随時情報共有しながら活動しています。

先輩からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストをあげており、療法士はそれぞれ課題を持って業務に取り組んでいます。現在のところ、当園には言語聴覚士は私1人の状態ですが、隣接する邑久光明園との交流もあることから、摂食嚥下のチーム医療についても言語聴覚士どうしでの情報共有も行えています。どうぞよろしくお願い致します。





対象病期

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 |
|-------|-----|-----|-----|

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士20名 作業療法士13名 言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は37診療科、病床数700床を有する国立病院機構の中の大規模病院の1つであり、「地域がん診療連携拠点病院」、「3次救命救急センター」、「地域周産期母子センター」、「災害拠点病院」、「地域医療支援病院」などの機能を有する中核的な高度急性医療機関です。

職場責任者からのメッセージ

呉医療センターリハビリテーション科では相互尊重コミュニケーションを実践し、働きやすい職場環境を実現しています。約40名のスタッフ各々が役割を担い、科内で活躍できる場面が準備されています。意見交換が活発に行われ、一人一人の思いや考えを大切に、みんなが納得・安心して主体的に業務に取り組める職場です。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒737-0023
 広島県呉市青山町3丁目1
 電話番号（代表）：0823-22-3111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kure.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、高度急性期の脳血管疾患・がん・摂食嚥下障害などの患者さんを中心に言語聴覚療法・摂食機能療法等を実施しています。

特に摂食嚥下障害に対しては、院内に「摂食支援委員会」が設置され、耳鼻科・脳神経内科医師、薬剤師、管理栄養士、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士などからなる「摂食嚥下支援チーム」が形成され、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査等による評価のもと、毎週定期的に合同カンファレンスを行い、詳細に・他覚的に・継続的な介入を行っているのが特徴です。



教育体制

新人に対しては、当部門新人教育プログラム・スケジュールに基づき、プリセプターを中心としたサポート体制のもと、無理のない計画的な指導教育を行っています。

科内でも教育・学部部による勉強会・文献抄読会・症例発表会があります。また、院内では毎年多数の各種研修が実施され、充実した自己研鑽の場が提供されています。

学術活動

国立病院総合医学会での学会発表や、院内での症例発表を行っています。

NST40時間研修やTCSA勉強会における講義：「摂食嚥下障害」に対して、講師派遣を行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間に、定期的に、脳神経外科・内科、リハビリテーション科、NST、摂食嚥下支援チームなどを中心に、PT・OTに加えて、多職種（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・摂食嚥下認定看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）からなるカンファレンスが行われています。

先輩からのメッセージ

言語聴覚士として3年目になります。当院は、高度総合医療施設です。脳血管疾患をはじめ、呼吸器疾患、神経難病がん等、幅広い疾患の患者さんに携わることができ、専門的な知識・技術を深めることができます。日々貴重な臨床経験が積めますし、患者さんと関わっていく中で変化が見られた時は、とてもやりがいを感じます。



対象病期

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 |
|-------|-----|-----|-----|

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士13名 作業療法士9名 言語聴覚士2名

当院の特徴

広島県東部医療圏の中核病院として、岡山県西部地域の医療をも担っています。「苦痛のない医療」を実践すべく、内視鏡や腹腔鏡を駆使した検査処置や手術を行っています。また、緩和ケアチームをはじめとして、各職種の強みを発揮してチーム医療を促進しています。さらに治療方法の開発など臨床研究や治験を行っています。

職場責任者からのメッセージ



理学療法士長の平野です。福山医療センターは急性期病院らしく、スタッフが患者さんのために日々奮闘しています。そのため忙しく感じるかもしれませんが、とても充実感が得られる職場だと思います。また現在は疾患に対してチーム制を敷いており、PT・OT・ST部門がチーム内でサポートしあったり、目標や課題を共有できているのも福山医療センターリハビリテーション科の特徴です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14-17
 電話番号（代表）：084-922-0001
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://fukuyama.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は383床（一般344床、ICU4床、HCU5床、MFICU6床、NICU12床、GCU12床）を有し、地域の基幹病院としての役割を担っています。

言語聴覚士は外科・整形外科・呼吸器外科・頭頸部外科などの周術期、COPD・間質性肺炎・肺がんなどの呼吸器疾患、加齢などによる誤嚥性肺炎等、摂食嚥下機能障害の患者さんを対象に、嚥下機能評価や訓練を行っています。また放射線治療や化学療法などによる経口摂取困難に対する支援も行っています。

耳鼻科医と連携を図り、必要な患者さんに対しVE・VFなどを用いた評価を実施し、安全な経口摂取法の提案やQOL向上に向けた支援を実施しています。新生児の哺乳評価や支援、小児の摂食嚥下障害、構音障害などにも携わっています。



教育体制

新人教育では、当科既定の新人教育プログラムに基づき、新採用者に対して指導係を配置して指導や助言を行い、漸増的な患者担当を遂行しています。

院内には摂食嚥下サポートチームはじめ多くのチームがあり、多職種での活動に参加し専門的な意見を聞くことができます。院内の勉強会や院外から講師の先生を招き開催されるオープンカンファレンスも充実しており、幅広い分野の自己研鑽ができる環境です。

学術活動

市主催の医学祭や県士会等の講師派遣

当院には、文献検索や文献の取り寄せができ、統計ソフトも保有しているため、研究や学会発表がしやすい環境です。先輩から発表等の指導を受けることもできます。

他部門との連携

食事に関して適宜、多職種（医師・看護師・栄養士など）とカンファレンスを行い、患者さんに適した食事形態の調整や栄養法の検討を行っています。

入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。また在宅に関わる職種の方と退院前カンファレンスを行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院では新生児から高齢者まで、あらゆる世代の幅広い疾患の患者さんに携わることができます。言語聴覚部門は2011年に開設され、ニーズは年々増加しています。日々、新たな発見がたくさんある職場です。私たちと一緒に成長しませんか？





広島西医療センター

対象病期

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 |
|-------|-----|-----|-----|

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士14名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

急性期病床と筋ジストロフィーやALSをはじめとする神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の療養病棟を兼ね備えた“ケアミックス型”の病院です。複数の異なった領域のリハビリテーションを経験できます。発達障がいの外来も行っています。

職場責任者からのメッセージ



神経・筋疾患への対応は学校で教わらないことも多く、勉強の毎日です。急性期リハビリテーションも含め、患者さんひとりひとりとしっかり向き合い、相手のニーズに応えられるようコツコツと努力する。。。そんなスタッフが多いです。「患者さんとともに」これからも、成長しつづけるリハビリテーション科を目指しています！

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号
 電話番号（代表）：0827-57-7151
 リハビリテーション科 廣川・長谷（職場長）まで
<https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では、神経・筋疾患、重症心身障がい、発達外来、がんの方を中心にリハビリテーションを実施しています。

病棟で看護師と相談しながら、食形態や食事姿勢についての検討や、嚥下訓練、構音訓練を行います。必要に応じて、嚥下造影検査も行っています。

発達外来では、未就学のお子さんを中心に言語発達や発音、コミュニケーションに難しさを抱える子ども達に対して、遊びを通して発達を促していけるよう個別訓練を行っています。



教育体制

まずは訓練場面の見学から開始し、その後少人数担当していただきます。個人の理解度に合わせて、少しずつ学習を行っていただき、技術の習得をサポートいたします。

言語聴覚士だけでなく、理学療法士や作業療法士など職域をこえて、報告・相談・指導の受けやすい環境です。科内での勉強会や症例検討会も行っています。

学術活動

院内研修（看護師に向けた摂食嚥下の基礎的内容）の講師などを行っています。

他部門との連携

院内の委員会への参加や、多職種と協働しての研修やラウンド、カンファレンス等に参加する機会があります。

先輩からのメッセージ

当院は、小児から成人まで様々な分野のリハビリテーションを行っています。分野が幅広いため悩む事も多いですが、先輩に相談しやすく、雰囲気の良い職場です。また科内での勉強会が定期的にあります。勉強会では新しい知識を身につける事ができ、自己研鑽につながります。

入職して3年目になりますが、福利厚生も整っており働きやすい環境であると感じています。



対象病期

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 |
|-------|-----|-----|-----|

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

作業療法士6名

言語聴覚士2名

当院の特徴

広島中央医療圏の急性期中核病院として、科学的根拠に基づいた安心・安全な医療を提供します。政策医療であるがん、循環器病、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患の専門医療施設として位置づけられ、これらの診療機能を果たすべく専門的な医療の提供はもちろんのこと、ナショナルセンター等との連携の下に臨床研究、教育研修、情報発信を積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者さんが特に多いです。急性期ということもあり特に早期離床・早期回復を目指しており、在宅復帰あるいは回復期病院転院まで基本動作能力訓練や環境調整等を行います。また土日祝日であっても当日処方に対応できる診療体制を取っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0041 広島県東広島市西条町寺家513

電話番号（代表）：082-423-2176

リハビリテーション科（原田）まで

<https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者が特に多く、失語症を含む高次脳機能障害や脳血管疾患後遺症の嚥下障害に対する需要が高いです。

嚥下では嚥下サポートチームの一員として嚥下機能検査から訓練プログラム案の作成、食形態の選定まで一貫してかかわっていきます。また聴覚検査も担当しており、純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンスオージオメトリーを行っています。



教育体制

科内で定期的な勉強会があり、新しい知識の習得や担当患者さんの症状への理解を深めることができます。また、有料文献にフリーアクセス可能な端末がありますので疑問点が生じたときに論文を閲覧しやすい環境となっています。嚥下分野では耳鼻科医や嚥下認定看護師等、関係職種とディスカッションを行うことで障害に対して総合的な理解を深めていきます。

学術活動

令和4年度 実績なし

他部門との連携

SST（嚥下サポートチーム）のメンバーとして耳鼻科医をはじめとした多職種と共同で病棟回診、カンファレンスを実施し嚥下困難患者の経口摂取をサポートします。

NST（栄養サポートチーム）のメンバーとして栄養不良患者の栄養摂取を嚥下面からサポートします。

先輩からのメッセージ

当院では急性期から様々な疾患と関わるため、より豊富な経験と知識を得る事が出来ます。言語聴覚部門はスタッフ数が少ないため一人が受け持つ患者さんは多めですが、その分様々な疾患、障害を経験することができます。

カンファレンスも定期的で開催されており多職種との連携も取りやすい環境が整っています。





関門医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数※

理学療法士17名

作業療法士12名

言語聴覚士2名

※育休等：3名を含みます。

当院の特徴

当院は山口県西端に位置し、下関市から県北西部を医療圏とする救急指定病院です。また、病床数は救命救急センター（12床）・ICU（4床）・急性期一般（267床）・地域包括ケア病棟（96床）を有し、救命医療から在宅復帰までの医療サービスを提供しています。

職場責任者からのメッセージ



当科では多職種連携によるチーム医療を推進しています。また、働きやすい職場環境の構築とともに、臨床と教育に力を入れております。若手の職員が多いため、教育部会・研修部会のもとで組織的な人材育成を図っています。また、育休や介護休暇等の制度を利用しやすいよう互いにフォローし合いながら、安心して長く働ける職場を目指しております。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1-1

電話番号（代表）：083-241-1199

リハビリテーション科（職場長）安川（やすかわ）まで

<https://kanmon.hosp.go.jp/>



関門医療センター

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり 遅出あり

部門紹介

「超急性期」から「地域包括ケア」まで、地域社会に貢献できるリハビリテーションサービスを目指し、365日体制で急性期リハビリテーション医療を進めています。

摂食機能療法では、耳鼻科医によるVE検査を実施しており、多職種と連携しながら進めることができます。

言語療法では、脳疾患、神経難病など、比較的幅広い分野に関わることができます。



言語聴覚室前
(抽象画が飾って
あります)



言語聴覚室内

教育体制

新人教育では、新人スタッフ1名につき、指導者を1名配置しています。加えて、新人教育グループを設立しており、リハビリテーション科全体で情報の共有を行い、指導・助言を行います。

学術活動

各種関連学会での学術発表は自由に実施でき、がんのリハビリテーション研修などの研修修了や資格取得に関する支援も行っています。

他部門との連携

診療科ごとに、定期的にカンファレンスを実施しています。その他、栄養サポートチームで、入院患者さんの栄養状態を横断的にチェックして、必要な栄養量の確保や食事形態などについて、チームで取り組みを行っております。

先輩からのメッセージ

各種学会、県士会が主催する講習会を受講することもでき、より質の高いリハビリテーションを実施できることを目標に日々の臨床に励んでいます。特に、急性期病院では、摂食嚥下障害の患者さんも多く、嚥下障害へのかかわり方、アプローチ方法が重要な役割を果たしていると思います。

今後は臨床経験をさらに積み、関連する認定士資格の取得等も考えています。キャリア形成への取り組みも実施しやすい環境となっています。



山口宇部医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士5名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は「がん」「呼吸器」「重心」を診療の3本柱として掲げています。

がん・呼吸器疾患の専門病院として高度で専門的な医療と提供しています。また重症心身障害児者の専門施設としてきめ細やかな医療と療育を提供しています。中四国グループの中では特化した診療を行う数少ない施設のひとつです。

職場責任者からのメッセージ



当院は呼吸器・がん・重心に特化した施設ですので、それぞれを深く勉強するにはとても適した環境だと思います。関わりが長期にわたる患者さんもいますので、リハビリテーションスタッフ間でこまめにコミュニケーションを取りながら関わっており、先輩後輩間でも相談しやすい雰囲気があります。興味のある方はぜひご一報を！

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒755-0241 山口県宇部市東岐波685番地

電話番号（代表）：0836-58-2300

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語療法部門では、呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎、肺癌など）・重症心身障害児（者）を対象に、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、言語障害に対してリハビリテーションを行っています。

一般病棟では、周術期～維持期・終末期など様々な期間に介入しています。重症心身障害児（者）病棟では、医師・看護師・保育士等、多職種と連携し、本人のもっている「機能」を最大限活かせるように、「QOL」の維持・拡大を意識した介入を行っています。



教育体制

新人教育は、当科既定の新人教育プログラムに基づき指導を行っています。また、担当の指導係を配置し、適宜必要な指導や教育を行っています。院内研修や勉強会なども充実しています。

他部門との連携

定期的に多職種でのリハビリテーションカンファレンスが行われます。通常訓練に関しても、主治医・看護部・療育部門・栄養部門などと適宜情報交換を行いつつ、訓練立案をしています。

退院前カンファレンスを通じて、地域医療スタッフとの情報共有を図り、在宅復帰のサポートをします。

先輩からのメッセージ

2020年度より言語療法も呼吸器リハビリテーションの算定を行うことが可能となり、呼吸器疾患患者さんへのST介入は増えています。

当院は呼吸器とがんの専門病院でもあり、当該器疾患に対してのリハビリテーションを数多く経験でき知識を身に付けることができます。

また周術期～終末期と幅広い時期の患者様と接する機会が多く、広い視野でリハビリテーションを捉え・考えられる環境です。





岩国医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は岩国市を中心に広島県・島根県の一部まで幅広くカバーし、半径40km・約40万人の医療圏において唯一の救命救急センター、2・3次救急医療および災害医療の要として機能しています。職員は地域の皆さまに信頼される病院であるとの自負心をもって働いています。高台にあるため、晴れた日は素晴らしい瀬戸内海の景色が見えるのも自慢です。

職場責任者からのメッセージ



地域における中核病院として幅広い疾患を診療することができます。伝統的に院内でのリハビリテーション科への信頼が厚く専門職としての力を発揮できます。離職者が少ないため安定した年齢構成で子育て中の職員も多く、男性職員の育児休暇取得などワークライフバランスにも早くから配慮を重ねてきました。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1-1

電話番号（代表）：0827-34-1000

リハビリテーション科（理学療法士長・作業療法士長）まで

<https://iwakuni.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の言語聴覚部門では小児から高齢者まで幅広く現れるコミュニケーション障害に対する評価・訓練を行っています。多くは脳血管疾患による言語障害（失語症、構音障害）ですが、呼吸器疾患やがんなど多岐にわたる疾患に介入します。また、小児は、家庭や学校での生活が円滑に行えるよう外来でもサポートしています。

当院では高齢患者さんが多く、嚥下障害に対する摂食機能療法の必要性が高いため、患者さんに最適な栄養手段を選択できるよう専門的な評価と訓練を行っています。



教育体制

当科の新人教育プログラムにそって実施し、新人1人に対して指導者を1人配置していますが、指導者だけでなく先輩セラピスト全員の診療を見て学ぶ時間を多く取っています。STの業務はリスク管理が必要な場面も多く、院内の吸引実技試験制度があるなど、安全に診療を提供できる体制が整っています。科内の勉強会は年間計画に沿ってPT・OTと合同で開催し、幅広い視野・スキルを習得することができます。

学術活動

各種研修会への参加、各専門領域の学会・山口県言語聴覚士会・日本言語聴覚士協会等の学会発表への支援も充実しています。

他部門との連携

各科のカンファレンスやラウンドに積極的に参加しています。言語・コミュニケーション、食事について専門職として意見を求められることが多くあります。患者さんの認知機能・コミュニケーション能力に合わせて支援・工夫を提案しています。特にNSTでは主治医・栄養士・摂食嚥下認定看護師と連携して、患者さんの栄養状態の改善や食形態の調整をきめ細かく行っています。STとしての専門性を活かして仕事のできる職場です。

先輩からのメッセージ

当院は急性期の総合病院であり、非常に多くの診療経験が積める場所です。また臨床に立つと様々な悩みが出てくるとは思いますが、土長による年2回のヒアリングをはじめとして、日頃から相談のしやすい環境が整っていると思います。私自身も、先輩方や同僚の支えがあり、言語聴覚士として今年で6年目を迎えることができました。

ぜひ国立病院機構中国四国グループと一緒に働きましょう。





柳井医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 6名

作業療法士 6名

言語聴覚士 2名

当院の特徴

神経難病患者（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発硬化症等）重度心身障害児（者）の専門的医療施設で、山口県全域、広島県西部地区の中核病院として障害者医療をおこなっています。一般外科はもとより、肛門疾患、直腸、大腸癌の専門的外科治療及びストーマリハビリテーションの専門医療の確立に努めています。入院人工透析をおこなっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は国立病院機構の中でも数少ない人工透析患者に対する積極的な医療およびリハビリテーションを実施しております。また、病院の眼下には瀬戸内海の多島美の絶景を望むことが出来、素晴らしい環境の職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95

電話番号（代表）：0820-27-0211

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://yanai.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

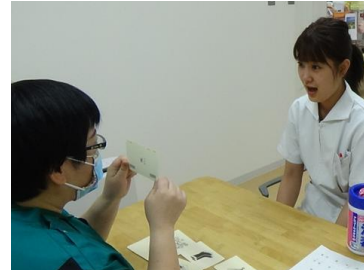
早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症などの神経難病の患者さんのリハビリテーションを主として行っており、構音訓練・失語症訓練等を行っております。

近年は脳卒中急性期など、急性期から慢性期まで幅広い疾患のリハビリテーションを行っており、さらには外科手術後、重症心身障害児者、人工透析の患者さんのリハビリテーションにも介入しています。



教育体制

毎朝、ST内で情報共有を行い、互いに意見を交換しています。

各自興味のある分野において積極的に勉強会や学会へ参加し、ST内で伝達講習を行っております。

学術活動

学会発表：令和4年度 2件

講演：令和4年度 神経・筋疾患研修会

他部門との連携

各病棟ごとに入院から退院までの間に定期的に脳神経内科や外科等のカンファレンスに参加しています。

また退院が決まれば必要に応じて多職種で退院前カンファレンスを行い、病院から在宅への生活が円滑に移行できるよう連携を図っております。

先輩からのメッセージ

当院は国立病院機構内でも特に風光明媚な場所で、患者さんと景色を見ながら訓練を行うなどしています。多職種と連携を図りながら、自分自身も神経難病について勉強しています。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 5名

作業療法士 3名

言語聴覚士 1名

当院の特徴

徳島県東部を診療圏として、政策医療である結核・重心病棟の他、一般病棟（地域包括ケア病棟含む）を有し「やさしい笑顔とよりそう医療」を病院の理念として、地域に貢献する医療を実践しています。

職場責任者からのメッセージ



当院リハビリテーション科では、病院の理念の「やさしい笑顔とよりそう医療」に基づいて、患者さん個々に合わせたリハビリテーションを提供しています。他部門や他職種ともコミュニケーションを取りやすく、患者さんの気持ちや目標に、どう寄り添って行っていくか、連携しながら取り組んでいます。

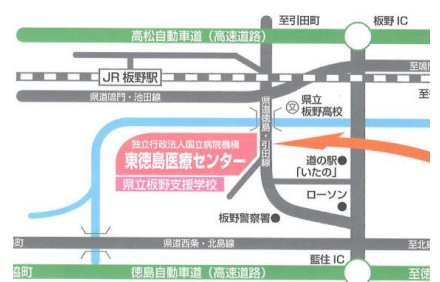
アクセス お問い合わせ先

所在地：〒779-0105 徳島県板野郡板野町大寺大向北
1-1

電話番号（代表）：088-672-1171

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://higashitokushima.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

令和3年度より言語聴覚士が新設となりました。東徳島医療センターでは、主に摂食嚥下分野への期待が大きく、食事評価・指導や訓練の依頼が多いです。

嚥下造影検査（VF）など標準嚥下機能検査も導入しています。その他、音声障害や構音障害、認知機能障害などの依頼も増えています。対象は、呼吸器疾患（結核・COPD・間質性肺炎・誤嚥性肺炎など）・脳血管疾患・外科疾患・重症心身障害児者などが中心です。

今後は高次脳機能障害や失語症などの患者さんの受け入れも検討していく予定です。



教育体制

毎朝リハビリテーションミーティングを実施し、業務や患者さんについて、報告・相談する機会が設けられています。また、リハ科内勉強会を月1回実施しております。実務では、リハビリテーション医・PT・OTへも相談・連携しながら進めることができるような環境です。院内の勉強会、中国四国グループ内施設への研修制度や中国四国グループ主催の研修参加も奨励されています。さらに、臨床研究などの学術活動にも精力的に取り組んでいます。

学術活動

◇学会発表実績：令和4年度 実績なし

◇院内研修や地域への各種研修会への参加を検討しています

他部門との連携

NSTカンファレンスやDOTSカンファレンス（結核）・摂食ラウンド（重症心身障害児[者]）に参加し、他部門（医師・看護師・ソーシャルワーカー・検査技師・薬剤師・栄養士など）と患者さんの情報共有を行うとともに、ST介入の対象者の抽出や啓発を行なっています。

先輩からのメッセージ

当院に常勤のSTが配置されて2年が経過しました。まだまだ「STとは」というものが確立されているとは言い難い状況です。その分、STがこれからできることの可能性は大きいです。

試行錯誤の状態ではありますが、リハビリテーション医・PT・OTやNSTのチームメンバーたちに支えられ、充実した日々を送っています。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

政策医療である神経筋疾患に対する医療を主に提供しています。県内にとどまらず、他県からの紹介も多く、医師と看護師、コメディカル部門との連携も充実しており、質の高い医療サービスが実現できるような体制です。古くからスポーツ医療も盛んで県内の中高生が多く来院し、リハビリテーションを実施しています。また、ロボットリハビリテーションにも取り組んでおり、10年近い実績があります。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科のモットーは「常に患者さんの病態を把握できるように日頃から資質の向上に努める。常に患者さんに寄り添ったリハビリテーションになるよう心掛ける。」としています。当院では慢性進行性に病態が変化する神経筋疾患の患者さんが多く、なかには精神的に疲弊している患者さんもおられます。高度で質の高いリハビリテーションを提供するにあたって、自らのスキルを向上させることはもちろんのこと、誠心誠意、患者さんに寄り添って医療にあたるのが重要と考えています。「治療してあげているのではなく、させていただいている」。治療を通して患者さんから学ぶことも多く、注意深く観察することで成長していくことができると思っています。お互いに志を高く持って働きましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒756-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地
徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地
電話番号（代表）：0883-24-2161
リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tokushima.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

本院は筋ジストロフィー医療の四国で唯一の専門病院です。言語聴覚療法では、筋ジストロフィーやパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症等の神経筋疾患、ポストNICUの重症心身障害児が主な対象となっています。摂食嚥下に関しては、摂食嚥下認定看護師をはじめとする多職種で構成されたSNST(摂食嚥下栄養サポートチーム)で、進行する疾患患者さんの食べたい思いを支援しています。

また、成人、小児ともに外来リハビリテーションも実施しています。特に小児領域では、言語・コミュニケーション障害や摂食嚥下障害に対するアプローチを行っています。



教育体制

ST部門全体で新人の教育を行っています。入職当初は、先輩の臨床を間近で見学し、知識や技術を習得していきます。その後、少ない人数から担当していき、徐々に担当数を増やしたり、担当患者の重症度を上げていきます。

院内の研修会も多数予定されています。

学術活動

学会発表：過去には県学会、四国学会、摂食嚥下リハビリテーション学会等で発表しています。

他部門との連携

定期的な多職種(医師、看護師、薬剤師、栄養士等)とのカンファレンスが行われています。カンファレンス以外にも、病気の進行に伴う、嚥下機能、コミュニケーション機能等についての情報共有を、主治医、病棟看護師を中心に密に行っています。

先輩からのメッセージ

当院では、神経筋疾患の患者さまを中心に、リハビリテーションを行っています。患者さんのできることを支えていくことにとってもやりがいを感じられる職場です。専門性の高い分野であり、知識不足を痛感することも多いですが、上司や同僚、多職種の方々と力を合わせ臨床に臨んでいます。

ご興味のある方は、国立病院機構中国四国グループでぜひ一緒に働きましょう。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士3名

言語聴覚士2名

当院の特徴

地域を支える病院として、①香川県の難病医療支援ネットワークにおける神経筋疾患分野の拠点病院としての難病医療、②結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療、③高齢者や障害者にも優しい一般医療の3つの機能を柱として診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は神経難病や呼吸器疾患の患者さんを中心とした維持期リハビリテーションや、急性期病院から転院してこられた患者さんに対して、患者さんの目線で自宅退院を想定したリハビリテーションを展開しています。スタッフのチームワークは抜群に良く、コミュニケーションを大事にしながら患者さんに寄り添うリハビリテーションを提供しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒761-0193 香川県高松市新田町乙8

電話番号（代表）：087-841-2146

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://takamatsu.hosp.go.jp>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

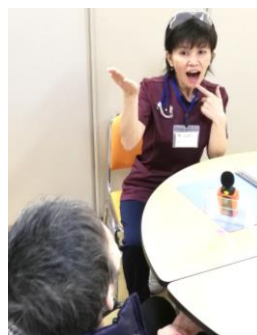
早出あり

遅出あり

部門紹介

神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症等）の構音訓練、嚥下訓練を中心に行っています。神経難病の専門STとしての自覚を持ち、患者さんの大切な人生を共に過ごすつもりで病期に合わせたプログラムを練っています。関係者会議やアドバンスケアプランニングにも参加し全人的な医療の一部を担えるよう心がけています。

またパーキンソン病短期集中リハビリテーション入院においてはST 2名ともLSVT®LOUDの認定を取得しており、集中的な訓練を実施するとともに、効果の定着に向けて退院時にはケアマネージャーやご家族に情報提供しています。



教育体制

科内では週に1度の症例検討会を開催し、成果報告や難渋する事例を検討し訓練に生かしています。

主治医も含めた多職種カンファレンスも活発で、多方面から充実した意見を得ながら現場経験を積んでいきます。

県士会やその他勉強会への参加も支援しています。

学術活動

◇2022年 国立病院総合医学会

「パーキンソン病短期集中リハビリテーション入院の意義～STの立場から」

◇2022年 香川県言語聴覚士会総会・研修会第17回四国言語聴覚士学会

「前頭葉機能低下を呈した多系統萎縮症患者に対するコミュニケーション支援」

他部門との連携

毎週多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）でのカンファレンスが行われ活発に意見交換しています

嚥下造影検査も毎週行われ、医師・看護師・管理栄養士・放射線技師と評価しその場で訓練方法や食事形態、栄養補給方法についての今後の方針など検討しています。

先輩からのメッセージ

リハビリテーション科内での症例検討会では、総出で頭を悩ませて対策を話し合える、風通しの良い熱心な職場と感じます。疲れた帰り道も小高い山に立つこの病院から見える夕日が美しく「明日も頑張ろう！」と思えます。





対象病期

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 急性期 | 回復期 | 慢性期 | 維持期 |
|-----|-----|-----|-----|

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士16名

作業療法士6名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院の特徴は成育医療、成人医療、重心療養の3医療を担っている施設であることです。リハビリテーション科では小児から成人まで多種の疾患に対応したきめ細やかな理学療法、作業療法、言語療法を365日実施しています。

職場責任者からのメッセージ



成人、小児、重心の多種、多様な疾患へ対応するスキルが求められますが、現有スタッフと楽しく、時に厳しく学び、仕事ができる職場です。一緒に目の前にいる患者に寄り添えるセラピストを目指しましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1

電話番号（代表）：0877-62-1000

リハビリテーション科（職場長）まで

https://shikoku-mc.hosp.jp

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚部門は成人部門と小児部門があります。成人部門では脳血管疾患患者の言語訓練、嚥下訓練を行ったり、誤嚥性肺炎などで入院されてきた患者の嚥下訓練など実施しております。小児部門では主に就学前までのお子さんの言語訓練を行っております。対象は自閉症、ADHD、口蓋裂、ダウン症、精神発達遅滞、機能性構音障害、吃音、難聴などのお子さんです。

また、その他の業務として、乳幼児健診（1歳半、3歳）の聴力、生活観察場面の評価担当、小児聴力検査担当、NSTラウンドへの参加など行っております。また、休日出勤は毎週土曜日か日曜日のどちらか1日に1名出勤しております。成人分野の急性期、小児分野、聴力検査など幅広い分野での業務を行うことができるのが当院の言語聴覚部門の魅力です。



教育体制

新人に対しては新人教育プログラムに沿って行います。1年間のスケジュールを組んでプリセプターが指導を行います。

新採用、転入者オリエンテーションも充実しております。なんでも話しやすい風通しの良い職場ですので、相談しやすい環境です。

学術活動

リハビリテーション科で学術委員会を運営し、科内勉強会や他病院との研修会など定期的に行っております。

国立病院学会やその他学会への参加、演題発表も積極的に行っております。

他部門との連携

医師、看護師、MSW、栄養士などコメディカルスタッフと定期的にカンファレンスを行い、患者の治療方針などの情報を共有しております。

NST（栄養サポートチーム）のメンバーとして、週1回NSTカンファレンス、ラウンドに参加しております。

先輩からのメッセージ

言語聴覚士として4年目になります。以前から小児のリハビリテーションと聴覚分野に興味があり、昨年度当院へ異動してきました。当院は急性期病院であり、小児から成人まで多種多様な疾患のリハビリテーションを経験することができます。経験豊富な優しい先輩方ばかりで、何かあればすぐに相談できる環境が整っています。



四国がんセンター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士1名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から緩和期まで医療体制が整備されています。

職場責任者からのメッセージ



当院は主に「がんのリハビリテーション」を実施しています。周術期・進行期から緩和期までがん医療におけるリハビリテーションの役割を担っています。療法士はもちろん医師・看護師も「がんのリハビリテーション研修」を受講できる体制が整備されています。また、当院は研修を主催する立場にあり、研修会で講師やファシリテーターを努めています。診療業務に加えて研究活動にも力を入れており、文献抄読会や関連学会での発表、論文執筆などを積極的に行っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0280 愛媛県松山市南梅本甲160

電話番号（代表）：089-999-1111

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また、緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から看取りまでケアする体制が整備されています。

周術期リハビリテーションは、頭頸科領域を中心に消化器や呼吸器疾患等幅広い疾患を対象としています。

維持期・緩和期のリハビリテーションは、化学療法・放射線療法治療患者さんに対する有害事象に配慮しながら行っています。



教育体制

当院のセラピストは「がんリハビリテーション料」の算定をするために「がんリハビリテーション研修」の受講が必須となります。また、当科の新人教育プログラムに基づき診療が行えるようサポートしています。その他週1回の文献抄読会を行い、知見を深めています。

学術活動

- ◇日本言語聴覚士協会
- ◇愛媛県言語聴覚士協会
- ◇四国がんリハビリテーション勉強会
- ◇日本摂食嚥下リハビリテーション学会

他部門との連携

リハビリテーションカンファレンスや頭頸科カンファレンス、多職種カンファレンス等に参加することで、医師や看護師、栄養士、臨床心理士等と情報共有しています。また、退院時は地域連携室やMSW等と連携し退院後の生活の準備に対応します。

先輩からのメッセージ

頭頸部がんや食道がんの周術期リハビリテーションを中心に脳転移等の高次脳機能障害、誤嚥性肺炎を対象とした呼吸器リハビリテーション等幅広く対応しています。治療を行う際の副作用や合併症を考慮しながら総合的にアプローチし、より良いリハビリテーションを提供できるよう精進しています。PT/OT/STの距離も近く、雰囲気よく勤務しています。一緒にがんリハビリテーションのエキスパートを目指して知識を深めていきましょう。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士8名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当医療センターは政策医療と地域医療を2本柱としています。政策医療では結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として広く県内から患者さんを受け入れています。またポストNICU病床を設け、障害を持った小児医療にも取り組んでいます。地域医療としては東温市と周辺地域の一般急性期医療に加え、循環器・呼吸器・神経・運動器疾患のリハビリテーションや生活習慣病対策に貢献しています。平成28年4月からは松山医療圏の2次救急輪番病院として救急医療の一端を担っています。

職場責任者からのメッセージ

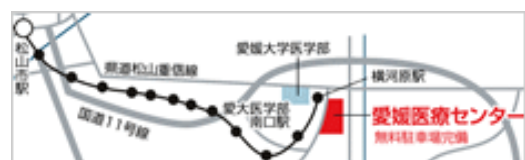


当科のリハビリテーション対象疾患は、運動器・脳血管・呼吸・循環・障害児者など多岐に亘っており、幅広い知識と技術が必要とされます。そのため技術の研鑽だけでなく、学会発表や各領域の勉強会・研修会参加等の学術活動、各資格取得などを奨励しています。また新人教育は、比較的年齢に近いスタッフをプリセプターとしていますが、他のスタッフも教育に携わっており、無理なく臨床に慣れてもらうようにプログラムしています。

当科では、気軽に会話をして、何でも相談しやすい職場作りを目指しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0281 愛媛県東温市横河原366
 電話番号（代表）：089-964-2411
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://ehime.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法では、一般病棟の神経難病、脳血管障害、呼吸器疾患、心疾患、整形外科の患者さんに対するコミュニケーション訓練や呼吸訓練、摂食嚥下訓練に関わっています。

また重心病棟でもコミュニケーション訓練や摂食嚥下訓練に関わっています。神経難病や重症心身障害の患者さんのパソコンやiPadなどを利用したコミュニケーションツールの習得にも取り組み、患者さんの希望に応えられるようアプローチしています。



教育体制

新人教育プログラムをマニュアル化し新人の育成、また症例検討や院内勉強会などの学術活動を推進しています。“気づき・考え方”の幅の広がりに着目し、さまざまな方面から患者像を捉える事ができるよう、各スタッフ間で密にコミュニケーションを取ることを指導・助言しています。

学術活動

学会発表や保健所での神経難病に関する講演会、東温市で開催される健康フォーラムや親子の医療体験学習など、院内外での学術・講演活動を行っています。

他部門との連携

呼吸、栄養、糖尿病などのさまざまなサポートチームにリハビリテーションスタッフが所属しています。言語聴覚士として栄養サポートチームや看護部の嚥下勉強会で研修会を行い、チーム医療の一員として患者さんに貢献できるよう励んでいます。

先輩からのメッセージ

パソコンやiPad®に特殊スイッチを接続したコミュニケーションエイドを導入して患者さんの先を見据えたコミュニケーションの方法を考えたり、患者さんが安全に口から食事の摂取ができるように他職種や他施設のスタッフと連携するなどの訓練の実施の難しさはありますが、良好な経過をたどった時の患者さんの喜びを感じられるところにやりがいを感じます。





高知病院

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

| | | | | |
|-------|--------|------|-----|---------|
| 脳血管障害 | 運動器 | 呼吸器 | 心臓 | がん |
| 神経難病 | 重症心身障害 | 発達障害 | 精神科 | ハンセン後遺症 |

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院では、主に呼吸器疾患、整形疾患、がん、重症心身の患者さんに対して理学療法を行っております。呼吸器に関しては、平成23年8月に呼吸器センターを設立し、医師、コメディカルと協力して包括的に診療することができるようになっております。整形疾患では、脊椎疾患、人工関節、骨接合術後の患者さんが多く早期から関わっています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは「患者さんへ最善のリハビリテーション医療を」という理念のもと、職員一人一人がリハビリテーション専門職として働いています。高知県では唯一の国立病院機構施設で、結核病棟や療養病棟、新型コロナウイルス感染症病棟といった地域のセーフティネットの役割を担っています。また整形外科の手術件数が多く、急性期運動器リハビリテーションの専門性を高めることができます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：

〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1-2-25
 電話番号（代表）：088-844-3111
 リハビリテーション科（渡利）まで
<https://kochi.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、主に呼吸器疾患、がん、重症心身障害児(者)の患者さんに対して摂食嚥下機能訓練、発声発語訓練といった言語療法を行っております。

特に呼吸器疾患の患者さんに関して、在院日数の短縮を目的に他部門と連携して、経口摂取の開始ができるよう早期介入しております。

また、重症心身障害児者の方には小児から成人まで幅広く、病棟での生活やニーズに寄り添い、成長を促し、悪化予防に努めて介入させて頂いております。



教育体制

言語聴覚士はもちろん、理学療法士や作業療法士などの職域を超えて指導・助言を受けることができる環境です。他部門とのコミュニケーションも取りやすく、院内外の研修あるいは講習に参加できる体制になっており、臨床業務に対する研鑽活動や学会発表などの学術活動に対するサポートも行っています。

新人教育としては、1週間程指導者を見学しその後少人数担当していくこととなります。指導者は指導、助言を行い、業務が円滑に行えるよう支援していきます。

学術活動

過去に国立病院総合医学会、日本言語聴覚学会、県土会等で発表した実績があり、国立病院総合医学会での優秀演題賞・優秀ポスター賞、院内で設立された『谷淳吉賞』を複数回受賞しました。

他部門との連携

各病棟、診療科ごとに多職種（医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー等）と週に1度カンファレンスを行っております。退院前には適時退院前カンファレンスを行い、情報共有を図っております。重症心身障害児(者)病棟は3か月ごとに主治医、看護師を交え、カンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

重症心身障害児者の方から呼吸器疾患、がんの方まで幅広い疾患に関わっており、ニーズに沿った良質なリハビリテーションを実施できるよう日々試行錯誤しております。そのため日々の臨床に関わることにより技術や知識の向上に繋がっていると感じています。

上司や看護師、医師にも相談しやすい環境が整っており、気負いすることなく臨床に挑んでいます。勉強会や学会にも積極的に参加出来るため、知識の幅は広がりやすいと思います。

現在子育て中ですが、産前休暇、育児休業、子の看護休暇等福利厚生も充実し、安心して働かせて頂いております。

